



7月1日が富士山の山開きだとは知りませんでした。今朝新聞を見ると、富士山の山肌に、大勢の人々が九十九折りに松明(?)を持って登山している写真が載っていました。この行列は6月30日のもので、彼らは富士山での「御来光」を期待する人々とのことでした。また、友人から「富士山と言えば、昨日息子は友達と自転車です合目まで登ったそうです。まあ、車で行くよりはエコですけど、あきました。」というメールをいただきました。いやあ、なかなかです！富士山の山開きをどんなに多くの人々が待っていたのだらう、と思わずにはいられませんでした。富士登山など考えたこともない、ただ、眺めるだけの、体力のない私は驚くばかりです。実は、6月30日の午後遅く、小雨のパラつく諸磯で、登っている人々が大勢いることも知らず、富士山をはるかに眺めて悦に入っていたのです。

私の住むエルミタージュのベランダからは、富士山が眺められます。富士山ウオッチャー・オタクと告白せざるを得ないほど、私は富士山を見るのが好きです。きっと、そのせいでしょう。私は「富士山との遭遇」のチャンスに恵まれています。6月30日は曇り空でした。夫が「魚が餌を待っている」という気持ちに駆り立てられ、もうすぐ猛暑がやってくるから、「今日こそ、日差しも風もない、絶好の日和だ」と釣行を願いました。優しい妻の私は夫の願いを聞き入れて、車を出しました。

ところが、高速道路に入ったとたん、小雨、そして、逗子、葉山あたりから、ジャンジャン雨が降り始めました。せっかく重い腰をあげて、しかも、半年ぶりくらいの釣行でしたから、諦めがたく、諸磯を目指して走りました。城ヶ島大橋を渡り、減速すると小雨模様となりました。三崎漁港の棧橋まで行ってみると、釣り糸を垂れている人たちの姿がチラホラ。ヤッパリネということになり、餌を買って、いつもの諸磯の堤防に回りました。諸磯湾は波もなく、静かで、人もおらず、魚もおらずという状態でしたが、「餌やり」と称する釣り糸垂れには、なんの支障もありません。広い堤防を独り占めして作業に余念のない夫でした。私は富士山の雲が切れるようにと念力を掛けました。

小雨が気になるので、外の景色をゆっくり眺めてもおられず、車に戻って、読みかけの「ムーミン」の童話を読み始めました。ムーミントロールの家族はとても素敵でした。不幸な生い立ちのパパは家族を守り、自分史を執筆しながら、今の幸せな生活を大切にしている人。ママはハンドバッグが手放せないけれども、お客様大歓迎、おもてなし大好きなのんびり屋。息子のムーミントロールは両親に愛され、好奇心旺盛で優しい心の持ち主。そして友人が一杯います。彼らと毎日冒険しながら、森の谷間で生きているのです。楽しく読み終えて、私は堤防に行ってみると、相模湾の向こうに富士山が頂を見せ、夫はのんびりと「餌やり」を楽しんでいました。